

会議報告書（議事概要）

会議の名称	「健康都市おおぶ」推進会議（令和4年度 第1回）
日 時	令和4年6月17日（金）13時30分～14時55分
場 所	大府市役所5階 全員協議会室
出席者 （敬称略）	徳田 治彦（国立長寿医療研究センター） 伊藤 浩明（あいち小児保健医療総合センター） 赤堀 将史（大府市医師団） 田中 涉（大府市歯科医師会） 榊原 明美（大府市薬剤師会） 山本 陽子（公募委員） 橋本 靖（愛知県知多保健所） 岩井 幸子（大府市スポーツ推進委員会） 鷺見 幸彦（認知症介護研究・研修大府センター） 藤田 静子（至学館大学） 事務局（健康都市スポーツ推進課・健康増進課・地域福祉課）8名
欠席者 （敬称略）	林 史子（大府市小中学校） 斉藤 雅茂（日本福祉大学）
内 容	
1 委嘱状の交付	<p>事務局： お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日は、半数以上の委員にご出席いただいているため、「健康都市おおぶ」推進会議条例第6条第2項の規定に基づき、令和4年度第1回「健康都市おおぶ」推進会議を開催する。始めに、次第の1、委嘱状を交付させていただく。委嘱状は机上配布とさせていただいているため、確認いただきたい。条例第4条のとおり、本会議の委員任期は2年となっているので、よろしく願います。</p>
2 あいさつ	<p>市長： 本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本来なら、委嘱状を私から一人一人にお渡しするのが本意ではあるが、こういった時期であるため、机上配布で委嘱に代えさせていただく。以前より引き続きお願いしている方も、新たに就任いただく方も、今年度から2年間よろしく願います。大府市は、市政施行以来、健康都市を市の基本目標としており、当会議は基本的な政策の方向性を決める重要な会議である。</p> <p>2年間あまり、コロナの影響で十分な施策等を予定どおり実施できなかった。市内において、感染者数はあまり減ってはいないが、それほど重症化していないという状況もあり、引き続き十分な対策を行ったうえで、実施できる事業、イベント等は実施していきたいと思っている。また、夏まつりの開催については、それぞれの</p>

地域で決定することだが、実施予定の地域もあると聞いている。秋の産業文化まつりは、なんとか推進していきたい。

この2年間、特に医療関係の先生方には、コロナ対策、ワクチン接種について大変お世話になり、ありがとうございました。3回目の接種率は、1、2回目と比べると若い方の接種率が低いが、全体では6割を超える状況になってきた。今は4回目の接種に向け、高齢者等に対して順次接種券を送っているところ。引き続き、先生方の御協力をいただきながら進めていきたい。

本日の議題は、令和2年3月に策定した「健康都市おおぶ みんなの健康づくり推進プラン」の進捗状況、あるいは今年度の健康都市施策について、報告させていただきたい。ぜひ気がついた点があれば、遠慮なく御意見をいただくようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

3 自己紹介

(委員および事務局の自己紹介)

4 会長選出

事務局： 健康都市おおぶ推進会議に関する条例第5条で、「推進会議には会長を置き、委員の互選によってこれを決める」としている。委員の皆様、どなたか推薦等をいただきたい。

委員： 徳田委員を推薦する。

委員一同： 異議なし。

事務局： 異議なしとのことで、徳田委員に会長をお願いしたい。徳田会長から一言挨拶をいただきたい。

会長： 委員長のお指名をいただき光栄である。微力ながら、精いっぱい務めさせていただきます。2年4か月に及ぶコロナ禍での生活もようやく出口戦略が議論されるようになってきた。ワクチン接種の促進をはじめ、関係各位の御尽力のたまものである。我々、長寿医療研究センターも、発熱外来及び入院診療等を通じて、この地域における感染の蔓延抑制に努力してきたが、大府市民の皆様と喜び合える日も近いものと信じている。折しも4月27日には、岡村市長並びに大村知事をはじめ、多数の御列席を賜り、第2診療棟いわゆる新病棟の開設記念式典を挙行することができた。新棟では、転倒危険を未然に察知できるスマートベッドの導入など、様々な先進的な設備が整っている。気分一新、世界に冠たる健康長寿医療研究開発へと、職員一丸となって取り組む所存だが、何より地元大府市の御支援あつての研究開発。これまで以上に充実した地域医療をその礎に、新しい知の創造に邁進することを約束する。本日の会議においては、健康増進にかかる都市計画

の根幹である「健康都市おおぶ みんなの健康づくり推進プラン」の進捗状況と、今年度の健康都市施策などが審議されることとなっている。委員の顔ぶれは大幅にリフレッシュされたが、これまで同様、様々な視点から活発な御発言をお願いしたい。

5 議題

(1) 「健康都市おおぶ」 みんなの健康づくり推進プランについて

事務局： 「健康都市おおぶ」 みんなの健康づくり推進プランについて【資料 No.1】 説明

(2) 今年度の健康都市施策について

・乳幼児食物アレルギースクリーニング事業について

事務局： 乳幼児食物アレルギースクリーニング事業について【資料No.2-1】 説明

委員： 昨年度の中頃、大府市からあいち小児保健医療総合センターアレルギー科に、当事業の進め方などについて相談があり、市職員にはフットワークよく、必要なことを全て実現させるという姿勢でやっていただいた。このスクリーニングに用いている問診項目は、名古屋市の乳幼児健診で5年以上データを取り、ハイリスク項目を統計的に抽出したスコアリングを作っていた。そのスコアリングのシートを初めて実践に用いるということで、我々アレルギー科のスタッフが全ての乳児健診に出向いて直接対面指導しており、スタッフとしても非常にやりがいを感じている。これを数年間継続し、最終的には大府市内の保育園に入った時点で、食物アレルギーの対応が必要な子どもの絶対数が減る、というところまで、アウトカムを出したいと思っている。当センターの中で、研究、臨床研究としての倫理委員会の審査も通しているなので、ぜひ良い結果を出して、研究的にも進展させていきたい。

・大府市こどもの近視予防プロジェクトについて

事務局： 大府市こどもの近視予防プロジェクトについて【資料No.2-2】 説明

・健康経営の推進と健康プログラムの実施について

事務局： 健康経営の推進と健康プログラムの実施について【資料No.2-3】 説明

委員： スポーツ推進委員として、エニスポにも関わっているのでぜひ尽力していきたい。会社では健康経営の推進をしているが、中小企業なので、なかなか費用をかけづらい状況の中、市の様々な取組によって、大変助かっており、ありがたい。特に、大府市健康プログラムは2019年から参加しており、ぜひ参加し続けたい。

・大府市高血圧対策プロジェクトについて

事務局： 大府市高血圧対策プロジェクトについて【資料No.2-4】 説明

委員： 表の6番「子ども食堂における食育の推進」について、至学館大学では「いた

だきまんぷく食堂」を北山公民館で月1回実施している。コロナ禍では実食ができず、インスタグラムで動画を配信していた。企画も、子どもたちの付き添いも、全て学生主導。大変好評だが、現状の課題としては「先着順の募集となっているため、新規の方がなかなか入れない状態になっている」と学生から聞いている。参加要件を考えるなどして、幅広く一般の子どもたちに食育したいと考えている。

• 本市の熱中症対策について

事務局： 本市の熱中症対策について【資料No.2-5】 説明

会長： 引き続き、各所でこういった啓発活動を続けていくことが重要。

(3) 地域包括ケアの推進について

事務局： 地域包括ケアの推進について【資料No.3】 説明

委員： 大府市は、認知症に関する啓発活動等について、日本でも先進的に取り組んでいる。認知症の方は、なかなか外出できないため、先ほど自死対策でもあったが重層的な支援が求められる。また、熱中症について、高齢者の搬送が多いが、外出できる方を対象としている熱中症対策が多いと思うので、外出できない人、家にずっといる人たちへの対策も今後考えていく必要があるのでは。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策について

事務局： 新型コロナウイルス感染症対策について【資料No.4】 説明

委員： コロナ対策について、皆さん、御協力いただきありがとうございます。大府市には、パルスオキシメーターの市民への貸出や買物代行等、様々ご助力いただいた。知多保健所の管轄4市、常滑市、東海市、大府市、知多市の感染状況について、最近は40～50件程度で、前の週をずっと下回っている。また、陽性の方たちにお電話の様子を伺うと、第5波の時は症状が重く、病気のことを心配される方が多かったが、今回の第6波については、比較的軽症で、病気の心配というよりは、いつまで家にいなければいけないのか、いつになったら普通の生活ができるのか、というところに関心がある様子。少し出口が見えてきたというか、トンネルの先に光が見えてきているのかなと、感じている。

(その他意見・質問等)

会長： 予定の議題はここまでだが、発言いただいていない委員もいるので、ご意見伺いたい。

委員： 24ページ、熱中症対策の中で、学校教育現場での対応に、「スポーツドリンクの持込みを許可」とある。熱中症対策として、摂りたいのは水分だと思うが、糖分まで摂ってしまうと、虫歯の原因になるので注意が必要。スポーツドリンク全てが虫歯の原因とまで言わないが、スポーツドリンクそのものが酸性なので単純に歯が溶ける。また、学校現場だけでなく、工場等でもスポーツドリンクを飲まれ

る方が多いと思うので、現場の方にも注意いただくようお願いしたい。

委員：21ページ、高血圧対策の中で、子ども食堂の話があったが、外国人の子どもの参加はあるのか。

委員：門戸は広げているが、先ほども少し触れたとおり、先着順となっているためリピーターが多く、入れていないと思う。

委員：家に引きこもってしまっている人や言葉が通じない人、手が差し伸べられない人たちに、どうやって情報を伝え、手を差し伸べるかが、これから非常に重要になってくるのではないかと感じた。

また、11ページの食育計画で、食品ロスの削減に向けたフードドライブの実施とあったが、それぞれの公民館でどのぐらいの人数の方が来ているのか。

事務局：まず、子ども食堂の周知についてだが、先ほど紹介のあったいただいた講座形式の子ども食堂とは別に、講座形式ではない子ども食堂が市内に3か所あり、それらについては地域の回覧版で周知している。

次に、フードドライブについて、どれぐらいの方々に参加いただいているか、具体的な数字までは持っていないが、多くの方にご協力いただいていると聞いている。ただ、物価高騰等により、最近は以前と比べて参加者が減少している様子。

委員：また次回は数字も出していただくようお願いする。あと、5ページの健康増進計画で「運動が嫌いな中学生の割合が男女ともに悪化」というのは何か原因を分析しているか。

事務局：分析まではできていないが、運動の機会が減ったことが影響しているのではないかと考えている。

委員：24ページの熱中症対策について、夏場は子どもに水筒を持たせるが、子どもは「重いから小さい水筒でいい」と言っており、飲む量を制限していないか心配。学校で水分補給できる何かがあればいいと思う。

もう1点、食事の関心や1時間以上の運動などで、50代の結果が少し下がっているとあった。結果は調査対象によるかもしれないが、50代はまだ現役世代なので運動するイメージがあった。ここまでターゲットがわかっているのであれば、次の手が考えられるのではないかと。

委員：個人的なことで申し訳ないが、先ほど指摘のあったスポーツドリンクについて、水で薄めるのは意味がないのか。

委員：糖分濃度を下げるという意味では意味はあるが、虫歯の話で1番大事なものは頻度。朝御飯から給食までの間に、こまめに飲むのが良くない。こまめに飲むのは水かお茶にして、スポーツドリンクは食事の前後に飲むようにすると濃いものでもほとんど問題ない。歯科的には糖分を摂る頻度を下げてほしい。

会長：電解質が薄くなってしまおうので、スポーツドリンクの水割りはあまり推奨しない。1リットルあたり2〜3グラムの塩にポッカレモンで味付けした、砂糖なしのス

ポータドリンクもどきを糖尿病の方に勧めている。口腔清浄という観点はもちろんあるが、運動されるのであれば糖質摂っても大丈夫。できるだけしっかり水分と塩分を摂っていただくことが大事。

委員：他の委員からも意見があったが、届かない環境の人たちにどう声を届けるか、ということについて、スポーツ推進においても言えること。例えば、何かイベントを企画したときに、やはり広報だけでは声は届かない。スポーツ推進委員は各々仕事を持っていながらの活動であり、我々だけでは難しいところがあるので、声が届かない人、外出が難しい人たちにどう声をかけるか、一緒に考えていただきたい。

会長：3年目となったプランの進捗状況について、どうしても下向きのカレントに目がいってしまうが、全体で見ると上向きのもののほうが多いのではないかと、非常に肯定的に受け止めている。この調子で進めていただければいいのでは。また、今年度の施策についても、コロナ禍の中で、非常に積極的な施策を考えていただいております、非常に良いと捉えています。本日頂戴した意見を踏まえ、さらに上向きにできるような改善を考えていただきたい。

6 その他

(委員からの連絡なし)

事務局：本日はそれぞれの議題において、専門的な見地、地域のご意見というところで、色々な気づき、ご指摘、その他様々な案を賜ることができ厚く御礼を申し上げます。本日いただいた意見等につきましては庁内、他の委員とも共有させていただき、今後の事業施策に活かしていきたい。第2回の開催は、2月15日(水)、場所は今回同様全員協議会室を予定している。開催日が近くなったら、改めてご案内をさせていただきます。